J. Jpn. Soc. Soil Phys.
土壌の物理性
No. 143, p.49 ～ 50 (2019)

JpGU報告
資　料
Miscellaneous

地球惑星科学連合 (JpGU) 2019 H-CG34 Education and research for rehabilitation of agriculture against harmful rumors in nuclear disaster areas（原子力災害被災地における農業再生と風評被害払拭のための教育研究）開催報告

溝口 勝 [1]・登尾浩助 [2]

Masaru MIZOGUCHI[1] and Kousuke NOBORIO[2]

2011 年の東日本震災以来，さまざまな大学が学生を現場に連れて行き，そこから現場ニーズを拾うことの重要性を気づかせる教育プログラムを実施してきた．本セッションコンビーナの溝口もまた，原発事故の 3 か月後から福島県飯舘村に赴き，NPO 法人や農家と協働で独自の農地除染法を開発し作物の試験栽培をしてきた．また，2012 年から学生の現場見学会を実施して現地訪問前後における学生の意識の変化を目の当たりにしてきた．こうした経験を通して，福島の農業復興には放射能汚染地というハンデにめげずに新しい日本型農業の創設にチャレンジする若者を育成することが必要であると考え，2018 年度から【大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業】（復興庁 / 文部科学省）で「飯舘村における農業再生と風評被害払拭のための教育研究プログラム」を実施している．今回の JpGU セッションはこのプログラムに参加している土壌物理学会関係者に呼びかけ，現場教育やフィールド研究を通して観察された学生の意識の変化について報告してもらい，大学の社会的価値のあり方について議論することを目的に企画された．JpGU での福島原発関連の企画は 3 年連続で，コンビーナを西村教授（東大 : 過去 2 回）から溝口（東大）に交代してのセッションである．

発表件数は口頭発表 5 件，ポスター発表 4 件であった．今回の企画では，飯舘村復興対策課の杉岡誠氏を招待講演者として招待し，飯舘村で現在実施している住民の生活スタイルに合わせた農業再生の取り組み（1. 農地を守る農業，2. 生きがい農業，3. なりわい農業，4. 新たな農業）を紹介してもらった．他の発表者の講演時間を 10 分とし，杉岡氏との議論に多くの時間を割いたのが特徴である．杉岡氏は東京工業大学大学院で核物理を専攻して，放射性セシウムの挙動をよく理解していることもあり，口頭発表やポスター発表の講演者との議論が極めて明快だった．（Fig. 1, Fig. 2）

2019 年度の口頭発表とポスター発表のタイトルと発表については Table 1 を参照して頂きたい．



Fig. 1　杉岡氏による招待講演．

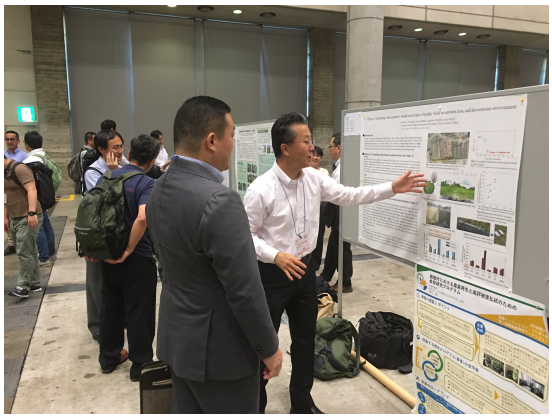


Fig. 2　ポスターセッションでの議論．

[1]Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8657, Japan. Corresponding author: 溝口 勝, 東京大学大学院農学生命科学研究科.
[2]School of Agriculture, Meiji University, 1-1-1 Higashimita, Tama-ku, Kawasaki, Kanagawa 214-8571, Japan.

Table 1 H-CG34 「原子力災害被災地における農業再生と風評被害払拭のための教育研究」の発表タイトル.

口頭発表

[HCG34-01]	原子力災害被災地における農業再生と風評被害払拭のための教育研究 *溝口 勝 [1]（[1.] 東京大学大学院農学生命科学研究科）
★招待講演 [HCG34-02]	飯舘村「農」の再生に向けて 杉岡 誠 [2]，*溝口 勝 [1]（[1.] 東京大学大学院農学生命科学研究科，[2.] 飯舘村復興対策課）
[HCG34-03]	土壌分画別セシウム吸収による作物毎の違い *二瓶 直登 [1]，大前 芳美 [1]，古川 真 [1]，吉田 修一郎 [1]（[1.] 東京大学大学院農学生命科学研究科）
[HCG34-04]	福島県飯舘村における山菜とキノコによる農業再生 *登尾 浩助 [1]，福山 雄大 [2]，藤田 理子 [1]，杉野 弘明 [2]，溝口 勝 [2]（[1.] 明治大学，[2.] 東京大学）
[HCG34-05]	被災地におけるスタディツアーが参加者の抱く訪問先への愛着に与える影響 — 農学部学生を中心とした福島県飯舘村訪問を事例に — *蛯谷 夏海 [1]，溝口 勝 [1]，杉野 弘明 [1]（[1.] 東京大学大学院農学生命科学研究科）

ポスター発表

[HCG34-P01]	森林小流域からの懸濁態放射性セシウム負荷量推定に向けた水土砂流出解析 *山崎 琢平 [1]，濱本 昌一郎 [1]，西村 拓 [1]（[1.] 東京大学大学院農学生命科学研究科）
[HCG34-P02]	Radiocesium inter-annual variations and spatial dynamics in watershed in Iitate, Fukushima, Japan *斉藤 真利 [1]，大澤 和敏 [1]，二瓶 直登 [2]（[1.] 宇都宮大学，[2.] 東京大学）
[HCG34-P03]	飯舘村農業再生のための意識の風化払しょくの試み *西脇 淳子 [1]，溝口 勝 [2]（[1.] 茨城大学農学部，[2.] 東京大学大学院農学生命科学研究科）
[HCG34-P04]	水田の畦畔や法面に残存する放射性セシウムが周囲の線量や下流環境に及ぼす影響 *吉田 修一郎 [1]，西田 和弘 [1]，福井 拓 [1]（[1.] 東京大学）